



中南米 ブラジル



ジャイバ灌漑事業Ⅱ

灌漑施設の整備により農業生産の増加、地域経済の発展に貢献

【外部評価者】

アイ・シー・ネット株式会社 百田 顕児

レーティング

有効性・インパクト	a	総合評価 B
妥当性	a	
効率性	c	
持続性	a	

本事業の目的

ミナス・ジェライス州ジャイバ農産加工地区においてジャイバ灌漑事業第2期として農業施設等の建設および農家・農協等への融資を行い、灌漑面積の拡大および農業生産性の向上・農業生産増加をはかり、もってミナス・ジェライス州の社会・経済状況の向上に寄与する。

借款契約概要

- 承諾額／実行額：
147億4000万円／142億8200万円
- 借款契約調印：1991年9月
- 借款契約条件：金利4.0%、返済25年（うち据置7年）、一般アンタイド
- 貸付完了：2005年9月
- 実施機関名：ミナス・ジェライス州（州政府企画調整庁/SEPLAG、州政府農業局/SEAPA、州電力公社/CEMIG、州開発銀行/BDMG）
- WEBページURL：
<https://www.mg.gov.br/>

本事業実施による効果(有効性・インパクト)

第2期事業地域の灌漑面積は約1万9200haで、計画時の2万haをほぼ達成している。本格稼働後まだ2年弱である2008年4月現在の利用率は約36%にとどまるが、すでに第2期事業地域の農地はすべて売却済であり、今後数年間で本格的な利用が進むと見込まれる。第2期事業地域は大農・企業主導による開発が進められており、今後、主要な生産物はバイオエタノール燃料の原料となる砂糖黍が全体の6割以上を占めるようになると思われる。

灌漑事業が地域経済に与える影響は大きく、ミナス・ジェライス州の域内総生産は安定的にプラス成長を続けているほか、大規模農家が進出したことで多くの雇用が創出されるなど、地域経済の基幹産業として大きな役割を果たしている。本事業の実施により概ね計画どおりの効果発現が見られ、有効性は高い。

妥当性

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、開発ニーズ、開発政策と十分に合致しており、事業実施の妥当性は高い。ミナス・ジェライス州北部を含む東北ブラジル地域はブラジル農業生産の20%を占めるなど、引き続きその重要性は高い。なお本事業は当初5～25ha程度の小・中規模農家を中心とした入植を予定していたが、実際には数百ヘクタール規模の大規模農家による進出が中心となっている。これは事業環境の変化（生産コストの上昇による大規模集約化の必要性の高まり等）をおもな理由とするもので、適切な変更であった。

効率性

本事業は期間について計画を上回った上（計画比160%）、アウトプット比で見た事業費も計画を上回ったため、効率性についての評価は低い。期間超過のおもな理由は、厳格化が進む環境承認の取得に3年以上の期間を要したこと、幹線道路工事等の追加工事が発生したこと等が挙げられる。

今後の展望(持続性)

本事業は実施機関の能力および維持管理体制ともに問題なく、高い持続性が見込まれると評価される。現時点では水利料金の徴収額につき調整中であるため、州政府が維持管理コストを負担しているものの、長期的には技術面、財務面で大きな問題はない。

結論と教訓・提言

以上より、本事業の評価は高いといえる。提言として、今後、小・中農中心で生産が停滞している第1期事業地域を含む地域全体の生産性を高めるために、第2期事業の大規模農家、企業のもつ技術を域内の中小農家に普及させることや、現状で中央政府（第1期事業）、州政府（第2期事業）がそれぞれ管理している維持管理体制の一本化やルールの統一・調整による効率化等をはかることが望まれる。



バナナ農園による収穫作業